

学校名 (生徒数)	守山市立明富中学校 (478人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：守山市水保町3045番地1

電話番号：077-585-7262

【研究の目的・研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

国語では、言語について知識・理解・技能を高め、「文章の展開に即して内容を捉える力」「自分の考えを文章表現する力」を高めていくことが必要である。数学では、さらに基礎・基本の定着を図ると同時に演習を重ね、数学の見方・考え方や技能を伸ばしていく授業の工夫や補習が必要である。学習状況調査からは、学習習慣の一層の定着を図り、成功体験や達成感・成就感に結び付く体験を工夫し、自尊感情を高めていくことが大切である。

このような課題克服のために、明富中学校として「何ができるか」、「何をしなければならないか」、生徒に確かな学力をつけていくために「今何をすべきか」について検討する必要がある。校区の小学校や保護者・地域社会と協力し、本校在学中に生徒に学力をつけさせる取り組みを具体的に進めたい。

(2) 課題解決に向けた改善策

昨年度に引き続いて「互いに高めあい、心豊かにたくましく生きる生徒が育つ集団づくり」をテーマとし全校体制で取り組む。生徒理解を深めながら、共に認め合い高め合うとともに自浄能力のある集団づくりについての手だてや工夫改善を行う。そのことで、安定した集団となり、自ら学ぶとともに集団としても学ぶ意欲を高めあう資質や能力が育成されるであろう。そして全国学力・学習状況調査の結果を分析し、個々の学力向上につながる授業づくりと小中連携しての取り組みも継続して推進する。

(3) 研究体制

☆校内研究において学力向上に向けた全教員の取り組みの一環として、次のA～Dの部会を位置付けている。

- A. 集団づくり部会・・・特別活動と生徒指導が連携し、生徒自らが自らの力でより良い集団に高める実践研究をする。
- B. 学級づくり部会・・・学年・学級を中心とした自治的集団づくりを実践研究する。
- C. 学力向上部会・・・全国学力・学習状況調査の結果をもとにして課題を明確にし、授業に生かすことができる学力向上策を研究する。
- D. 学習習慣部会・・・基礎学力を定着させるための家庭学習の習慣を身につけさせる取り組みを研究する。

→上記C.学力向上部会に数学科教員が所属し、アプローチ事業を念頭に取り組む。また、全校体制で一致した取り組みを進めるために年度途中から『パワーアップ！明富プロジェクト』と題して、上記とは別に学力向上委員会を設置した。

(4) 1年間の主な取り組みの経過

- ・ 4月23日(水)～25日(金)全国学力・学習状況調査の自校採点
- ・ 6月4日(水)校内研究部会別会議の実施
- ・ 8月1日(金)AM：教科会の実施、校内研修…学力向上に関わる実践報告
「理科が好き」と胸が張れる子どもを育てるために

PM：校区学力向上事業合同研修会の実施

校区の課題を教育活動に～合言葉は『運命共同体』～

- ・ 5月29日(木)～8月25日(月)調査部会で作成した評価問題を吟味・検討
- ・ 6月23日(月)～10月21日(火)総合教育センターとの共同研究にかかる検討・打合せ、および、実証授業と研究会実施、学力向上アプローチ事業学校訪問
- ・ 10月22日(水)校内研究授業、授業研究会の実施

国語科「話し合い活動と少人数グループでの学習」

美術科「ICT活用と関心と発想を高める学習」

- ・ 1月8日(木)～16日(金)数学科「相似な図形」評価問題の実施と自校採点
- ・ 1月30日(金)校内研究部会別会議の実施、部会で研究紀要のまとめ

(5) 具体的な研究内容・方法、研究を進めるうえでの工夫点等

○グループ学習の活用と教科や内容ごとの工夫

話し合い活動に力点を置くためには、普段からの授業で取り入れることが大切である。ただし、教科によって、内容に応じてペア2名～生活班6名の編成にするなど、弾力的に捉える。また、授業始めにいつもペア学習を取り入れる、話し合わざるを得ない状況をつくる等、教師側で活性化する仕掛けを作っておくことも重要である。



○朝学習時間の多様性と充実



本校ではアカデミックタイムと称して教科学習時間とは別に学習時間を設けている。前年度までは、ずっと朝読書に取り組ませたり、小プリントを解かせたりと通年でパターン化した学習スタイルが中心であった。

本年度半ばからは、複数回継続することで効果が期待できる課題(例.百マス計算)に取り組んだり、新鮮な刺激や好奇心をもたせ、表現力を高める課題(例.新聞コラム学習)をどんどん与えたりと、内容によって課題の出し方や取り組み方を変えた。

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

昨年度よりも大きく前進したのが、数学科に限らず、全校体制で学力向上の取組を展開したことである。主な取組は以下のi)～iii)である。

- i) 教科授業で「今日の課題」「まとめ」などの共通プレートを教員が使用
- ii) 1単位の教科授業毎に生徒が学んだ・分かったことを記述式のまとめ
- iii) 朝学習を 月曜日：週末課題(5教科小プリント)の答え合わせと復習
火～木曜日：百マス計算(2週間は共通課題)と朝読書
金曜日：新聞コラム学習(200字程度のまとめ)

また、教科を限定した研究授業を参観し、その後に授業研究会での意見交流を通して、各教科での取り組み方の違いや効果的な学習方法を学べたのは教員どうしを刺激する上でも成果が大きかった。

(2) 課題等

全校体制で教員が意識化できたものの、生徒指導で落ち着かない状況等があると、授業を展開するに精一杯で、例えば上記iiのような取組が実施できない場合があった。今後も、学力向上の取組と生徒指導体制の充実は常に連携を取って行く必要がある。また、教科を越えた取組や生徒側に金銭的負担が増えないように何につけても教員が準備する以上、負担が増大していることは否めない。